

人間らしく働くための2016 沖縄宣言

私たちは、2016年11月12・13日の両日沖縄県那覇市において、「第27回人間らしく働くための九州セミナー」を開催し、九州・沖縄をはじめ360名の参加者を得て大きな成功をおさめました。

近年すすめられてきた派遣労働の自由化など新自由主義政策の下で、はたらく権利が侵害され、長引く深刻な不況とも相まって労働の現場では深刻な事態が生じています。

「経済格差」が「健康格差」を作り出し「健康の不平等」化も進行しています。90年代以降の経済の「グローバル化」「行財政改革」「規制緩和」「社会保障制度の相次ぐ改悪」の結果として雇用・生活・健康破壊をもたらしています。

貧困と社会的孤立が拡大し深刻な生活困難を抱える労働者、シングルマザー、障がい者が増えています。健康保険が「事実上無い」ために医療機関に受診できず手遅れとなり死亡する事例も後を絶ちません。さらに「子どもの貧困」の実態は深刻です。子どもの相対的貧困率は16.3%（2012年）にのぼり、とりわけ一人親世帯では54.6%と著しく高くOECD諸国の中でワーストワンとなっています。

非正規雇用労働者が増加しつづけ低賃金で働く親が急増していることや、男女間の経済格差が大きいことなどが要因といえます。開催地沖縄の子どもの貧困率は29.9%と全国一高い水準となっています。

今回の九州セミナーでは基本コンセプトを「子どもの貧困から見える、親の働かされ方・働き方」として、記念講演やパネルディスカッションで総合的な討議を行いました。

昨年のががセミナーに引き続き若者が「労働基準法・労働安全衛生法・労働組合法」など労働者を守る制度（「働くルール」）を知り活用することが重要と位置付け「働く権利を学ぶ」ワークショップを沖縄県労働局の協力も得て実施することが出来ました。

現地実行委員会では基本コンセプトに沿った事前学習会を行いました。6月に行った「子どもの貧困問題」では粘り強い取材を行い実態を浮き彫りしている琉球新報の記者から話を聞くことが出来ました。また、8月には過労死問題から自分たちの働き方・働かされ方を学習しました。沖縄県と沖縄労働局から後援を頂きました。

「学び・調査し、行動する」一貫した活動である「セミナー運動」の大切さを実感し、人間味ある魅力的な運動として進めていくことへの確信をつかみました。

今回のセミナー参加者一人一人が、学んだ知識と、語り合った情熱で、職場・地域での活動を飛躍させ、人間らしく働き、暮らせる職場・社会の実現を目指して行きたいと思えます。

セミナー運動がさらに大きく羽ばたく事を誓い、セミナー宣言とします。

2016年11月13日

第27回人間らしく働くための九州セミナーin 沖縄